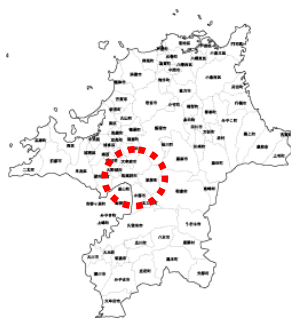


モデル事業名	市民参加の古代官道（西海道）調査・活用事業（西海道ルネッサンス）
活動団体名	特定非営利活動法人 鴻臚館・福岡城跡歴史・観光・市民の会 〔代表団体〕 特定非営利活動法人 歩かんね太宰府
ホームページ	http://kodaikando.yoka-yoka.jp
所属/担当者名	NPO 法人鴻臚館・福岡城跡歴史・観光市民の会事務局長／ 岡部定一郎
連絡先	092-716-8238, 090-3664-5971、fukuokajo@tos.bbiq.jp
活動地域	福岡県（福岡市、太宰府市、筑紫野市、春日市、大野城市他）、一部佐賀県（基山町）

● 活動地域の概要

西海道の基点である大宰府を中心にした半径10～15キロの古代官道ルート上の地域。北西部は福岡市の大都市部であり、東南部は平野部と丘陵部である。大都市部は経済活動優先で地域市民の連帯感やコミュニティがない。平野部は福岡都市圏のベッドタウンで、地域への愛着がない。丘陵部は人口減少地で地域の話題性が乏しく活気がない。古代官道はこれらの地域をつなぐ歴史文化遺産である。

20年度は大都市部、平野部を中心に試み、21年度は中山間部も含め調査した。



福岡県と該当地域



肥前・筑後国境道跡
古代官道の重要ルートの今日の姿



大宰府から基山・筑後国府に向かう
古代官道「城の山道」ルートの地区

● 活動地域の課題

該当地域は大都市部、平野部、丘陵部からなっており

- ① 空疎になった大都市部のコミュニティづくりには、大人から子供まで、関心の持てる新しい話題が必要である。
- ② 平野部は福岡都市圏の平凡なベッドタウン化しており、地域への帰属意識がない。
- ③ 丘陵部は人口減少地域で、さしたる話題もなかったが、実は古代官道の重要な「駅路」「駅家」があったところである。

これらの地域すべてに、身近な話題や調査・活用の対象となりうる、壮大な歴史文化遺産「古代官道」があることさえ認識されてこなかった。

● 活動の内容

・平成20年度 全く新しいテーマ、「古代官道」に対する市民の啓蒙セミナーとして、まず「市民フォーラム」を複数回行った上、数次にわたる「フィールドワーク」を行い、教育委員会専門家の案内で古代官道の踏査を行った。市民から「発見・提案・創作大募集」を行い、それらを含めて成果発表会「市民シンポジウム」を開催した。また市民参加の調査・活用事業の成果や今後に生かせる地図を成果報告書の形でまとめた。

● ・平成21年度 好評であった「市民フォーラム」「フィールドワーク」「市民シンポジウム」の組み合わせは、内容に関心を誘うような工夫をして行った。さらに「ワークショップ」として古代官道のルート、駅家（うまや）の所在地を2箇所（「長丘駅」、「城（き）の山道」）選び、そこに住み続けている地元住民とのグループ対話方式での調査・意見交換を行った。また易しい古代官道読本として「1300年前の高速道路」を作成の上、太宰府市の大宰府西・学院院両中学校の生徒（総数約800名）と古代官道「スクールフォーラム」を開催する。

● **活動の成果** ・平成20年度

- ① 壮大な歴史・文化遺産でありながら、従来専門分野の関心事に過ぎなかった古代官道の市民的認識に端緒を開くことができた。
- ② 従来「官」にのみ依存していた公的文化遺産の市民参加による調査・活用事業の先鞭を開くこととなった。
- ③ 専門家による地道な調査努力の成果が、広く一般市民の前で公開される場を提供したことは始めてではなかろうか。
- ④ 参加した市民からは、古代官道の魅力に対する関心が強く持たれ、輪が広がった。また色々な提案や画の創作なども寄せられた。
- ⑤ 古代官道の全国レベルの専門家からも、従来にない取り組みにとして評価を受けた。（古代官道の最高権威者からも著書で触れられた）

- ⑥ 方面から関心が寄せられ、雑誌記事や講演会要請もあり、今後の展開に期待が持たれた。
- ⑦ 古代官道の通っている自衛隊敷地訪問をきっかけに、自衛隊との協力関係ができた。

・平成21年度 ①新規として行った「ワークショップ」は嘗て古代に駅家（うまや）のあったところと、万葉集にでてくる「城（き）の山道」というルートを選び、丘陵地の集落の皆さんとグループ調査・意見交換を複数回、膝を交えて行うという試みで、まさにコミュニティづくりに新風を齎したと自負している。まだ方法論は今後工夫がいるが、専門家的に見ても、「古代官道」の地域伝承的調査という新手法になる可能性がある。

② 新規に本年は学校関係とのコラボレーションを目指してきたが、大宰府という古代歴史遺産が身近にある2中学校の協力を得ることができた。「古代官道読本」を活用して、2校それぞれ生徒参加の「スクールフォーラム」を行う予定で、先生や保護者も参加し、こんな素晴らしいものがあったという驚きも期待できる。

③ 「古代官道読本「1300年前の高速道路」は子供達向けでもあるが、大人からも解り易いとの評価で、今後の幅広い活動の導入部になる。

④ 「市民フォーラム」も「万葉集と古代官道」（いずれも7, 8世紀）という興味を誘うテーマにして、輪を広げる工夫とか、「フィールドワーク」にも身近な道路が実は古代官道だったといったルートを取り上げるなど工夫した。

⑤ NHKでは平城京1300年関連テーマとして特番「古代日本のハイウエー～1300年前の“列島改造”～」(10月12日BS-2放送)が企画され、これに協力することができた。



市民フォーラム in 福岡
20年12月3日



フィールドワーク
大宰府政庁跡 11月4日



ワークショップ長丘
11月10日



スクールフォーラム開催予定の学業院中学校正門

● 今後の課題及び展望

・課題 ① チラシ配付のほか、市の協力も得て「市政だより」や、教育委員会ホームページ掲載のほか、記者会見等も行ったが、まだまだ一般市民への浸透が限られている。参加したり、知った人はほとんど新鮮な驚きで関心を寄せる。大きな可能性を秘めていると感じるとともに、いかに参加者を広げることが工夫の要るところである。

② 行政側への「古代官道」活用提案（標識、遺跡・ルート整備等）は目下議論中で、今後の活動のなかで取り組む必要がある。

③ 「市民参加の調査・活用事業」は広範な活用可能性があるテーマであり、定着する方式を確立する必要がある。特に財源面の検討が必要である。

⑤ 都会部から過疎地まで地域のコミュニティづくりに効果的な、かつ新鮮なテーマであり、市民団体、学校、自衛隊等多くのコラボレーション可能性を一層追求したい。

⑥ この種テーマの地域活性化やコミュニティづくりに際し、行政の協力、市民の参加どちらにも「新たな公」が有力な概念であることがわかった。今後も「新たな公」の概念を国民に広く認識させる啓蒙活動を期待する。

・展望 ① 「市民フォーラム」「フィールドワーク」「市民シンポジウム」をベースにした市民参加スタイルの「古代官道調査・活用事業」のモデルを確立し、他地区でも容易に取り組めるようにする。

② 「フィールドワーク」で得られた古代官道探索ルートのデータベースをなお一層内容を積み上げ、マップ付ガイドブックにまとめ、この地域で今後多くの市民が関心をもって参加できるようにする。

③ 「ワークショップ」方式は古代官道に関する新しい調査方式であり、まさにコミュニティづくりそのものであり、今後試行錯誤もしながら実のあるものになりたい。

④ 自治体等への古代官道活用の提案を整理、精査し、今後自治体・地域市民等との協働で具現化を図る。

⑤ 全国6, 300キロ、駅数400という「古代官道」ネットワークは、各地に「市民参加事業」の可能性あることを意味し、過疎地も多くある中で、目新しい地域活性化・コミュニティづくりの起爆剤となりうる。

⑥ 古代官道沿線の小中高校などとのコラボレーションで、地域の貴重な歴史文化遺産として、教育や次世代に向けての継承、家族ぐるみでの関心を期待し、今後学校との連携に力を入れていきたい。そのためのツールとして易しい古代官道読本の充実も行う。

⑦ 昨今は歴史ブーム・街道ウォーキングブームもあり、平成22年は平城京遷都1300年にも当たり、全国的にもイベント開催など古代ブームが到来するというチャンスもあり、「古代官道ブーム」が展開することを期待したい。